

議会だより

瀬村

No. 185

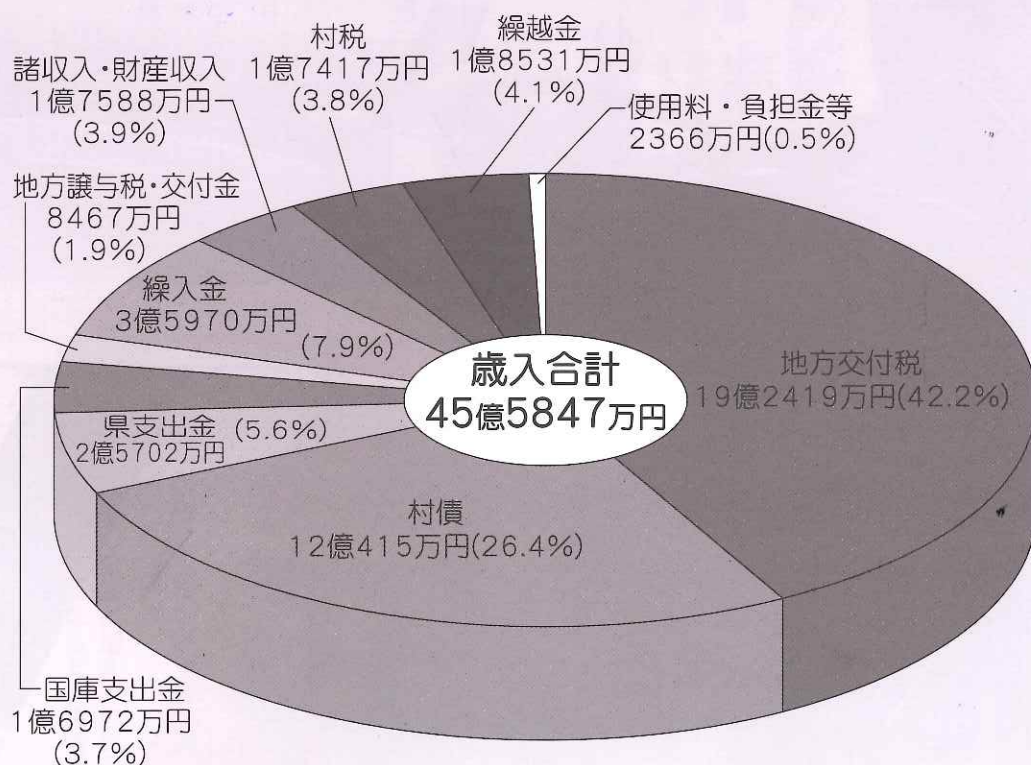
平成28年10月20日発行



の決算を認定

決算議会
9月定例会議

一般会計歳入 45億5847万円



9月定例会議は、6日から20日までの15日間の会期で開催されました。平成27年度の一般会計・特別会計決算8件、人事5件、報告2件、条例など3件、契約締結2件、補正予算7件の合計27件と、議員発議1件をすべて全会一致で原案のとおり、同意・認定・可決しました。また、一般質問は3議員が登壇し、村政をただしました。

■各会計の決算額

会計名	歳入(収入)	歳出(支出)	差し引き	収入未済額	
一般会計	45億5847万円	43億5991万円	1億9856万円	4157万円	
特別会計	国民健康保険(事業勘定)	3億6660万円	3億4918万円	1743万円	850万円
	国民健康保険(直営診療施設勘定)	8194万円	7628万円	566万円	
	後期高齢者医療	2516万円	2345万円	171万円	
	介護保険(保険事業勘定)	3億771万円	3億658万円	113万円	11万円
	介護保険(介護サービス事業勘定)	1億1311万円	1億1311万円		5万円
	簡易水道事業	3億5957万円	3億5841万円	116万円	75万円
	下水道事業	9421万円	9397万円	24万円	84万円
小計	13億4830万円	13億2097万円	2733万円	1025万円	
合計	59億677万円	56億8088万円	2億2589万円	5182万円	

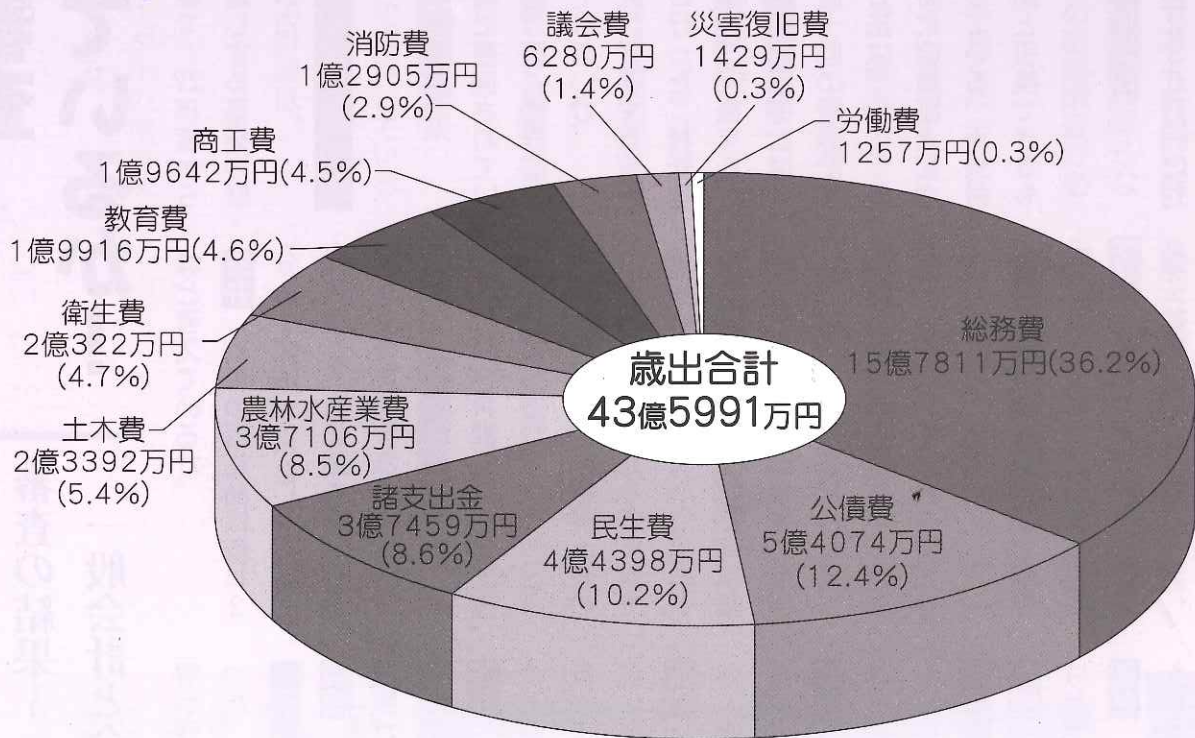
※ 金額は表示未満を四捨五入していますので、合計等が一致しない場合があります。

平成27年度決算の概要
一般会計の決算額は、歳入が45億5847万円、歳出が、43億5991万円、差し引き1億9856万円の黒字となり、このうち翌年度に繰越す財源5374万円を差し引いた実質収支も1億4482万円の黒字になりました。
地方創生事業の重要な施策に位置づけられている食肉加工センターが学校給食センターと併せ整備され、普通建設事業が増加したことにより、前年度に対する決算額は歳入歳出とも大幅な増額となっています。

平成27年度 各会計

一般会計歳出 43億5991万円

目的別内訳



■財政の主要な指数

区分	H25	H26	H27
財政力指数	0.10%	0.10%	0.10%
経常収支比率	83.9%	89.2%	89.8%
公債費負担比率	22.6%	18.7%	18.9%

■財政健全化判断比率

区分	H25	H26	H27	基準値	
				早期健全化	財政再生
実質赤字比率	-	-	-	15.0%	20.0%
連結実質赤字比率	-	-	-	20.0%	40.0%
実質公債費比率	8.3%	8.6%	9.3%	25.0%	35.0%
将来負担比率	-	-	-	350.0%	350.0%

財政健全化の評価は？

財政健全化を判断するため、実質公債費比率・将来負担比率・実質赤字比率・連結赤字比率の4つの指標があり、これらの比率は少ないほど健全な状態にあると判断されます。

平成27年度における比率はいずれも良好な数値となっております。

平成27年度決算審査 有効に使われているか！

決算特別委員会（9月12日・15日）
審査の結果）
一般会計と全ての特別会計を「認定すべきもの」



歳入

【歳入】
答弁 各事業で、27年度から28年度へ繰越しする事業の財源となっている。

歳出

【総務費】

街路灯LED化事業

質問 地区毎に整備されているが、通学路が暗く優先的に進めるべきではないか。

答弁 各地区が管理する街路灯を優先的に行った。村管理分は28年度事業で実施する。

村応援団登録記念品券とは

質問 入会時1回の登録記念品券の利用方法は。

答弁 登録時に会員証と記念品券を送付している。再来村の際に記念品と引換できるものである。

ふるさと納税返礼品

質問 寄附金230万円に対して返礼品が52万円となっている。返礼の率や品数の拡充

など考えているか。

答弁 納税の返礼品は概ね2分の1程度で米としている。28年度から返礼品を増やしカタログを作成する。

PR映像委託の成果品は

質問 村PR映像はどこで放映されているか。

答弁 総務省全国移住ナビのホームページで見ることができ

定住促進空き家住宅整備事業

質問 整備した空き家の活用状況は。

答弁 1名の方から申し込みがあり、入居手続きを済ませた。

秋田未来づくりプロジェクト

質問 やまゆり温泉の廃湯を

利用した融雪設備工事の効果・効果は。

答弁 ホテルプラン、スキー場入口など235m整備した。

雪が残ることもなく効果はあった。

雪冷熱活用実証事業

質問 仙人ゆりの実証委託で進展がみられたのか。栽培に向けて目処をつけているのか。

答弁 開花の時期を遅らせることができた。球根の増殖を行っているが、まだ提供する状況になっていない。

岩井川の雪室施設には

質問 仙人ゆり以外に何を入れるのか。

答弁 加工品や米粉、なるせ加工研究会で使う材料を保管していく。

プレミアム商品券発行事業

質問 商品券発行事業の効果はどうか分析されているか。

答弁 各種の業種に使用された結果が出ていることから一定の効果があった。

短角牛（赤べこ）復活推進事業

質問 特産品パッケージやパンフレットは、関係する指定管理業者の負担はないのか。

答弁 村が特産品のブランド化を図る観点から業者の負担はない。

定住促進奨励事業

質問 移住定住者へ商品券の助成が13名分あるが条件は。

答弁 村へのU・I・Jターナーで1年以上在住している方を対象に5万円分の商品券を助成している。

【民生費】

成瀬六十路の会

質問 対象者46名に対し参加者が17名で参加率が低い。参加したいと思う内容か。

答弁 以前は田沢湖に行った経緯もある。意見を聞き参加していただける内容とした。

保育所運営費の財源は

【質問】 以前は国・県の補助金が主であったが、現在は交付税参入か。

【答弁】 村単独事業分に対して交付税算入され、国・県補助金が減少している。

【衛生費】

予防接種事業費の算出は

【質問】 各種予防接種事業で、助成単価と人数を乗じても決算額にならない理由は。

【答弁】 生活保護受給者は全額助成になるため一致しない。

ゴミの分別啓発を

【質問】 可燃ごみの量が増加している。啓発により資源化が出来るのでは。

【答弁】 可燃ごみの増加の要因は分析していないが、啓発活動をを行い資源化に努めたい。

対象年齢の根拠は

【質問】 胃がん検診事業対象者が41歳と51歳の根拠は。

【答弁】 胃がんは40代、50代から罹患率が上がるため早期の対策でその年代としている。

【労働費】

新規雇用奨励事業の調査を

【質問】 補助金が無くなれば辞めてしまう状況ではならぬ。雇用状況の追跡調査が必要ではないか。

【答弁】 補助金が無くなった途端に辞めることの無いようにお願いしている。雇用状況を今年度整理したい。

【農林業水産費】

新生産基盤整備事業

【質問】 滝ノ沢ミニライスター乾燥機増枠は全額村負担か。

【答弁】 村で整備した設備であり、村負担になる。

機構集積協力金交付事業

【質問】 4法人で実施しているが、これ以上の集積は難しいようだ。今後の計画は。

【答弁】 4法人で100町歩の計画に対し約115町歩で、ミニライスターの増設など検討が必要である。

【商工費】

観光施設維持管理事業

【質問】 リフトや施設の老朽化

により維持管理費が増加することが見込まれる。将来、財政的に楽観視できないのでは。

【答弁】 スキー場では維持補修費が多額となる。利用向上のため、様々な事業の誘致を進めている。

【教育費】

芸術文化活動推進事業

【質問】 助成金が交付されている各事業は、事前に申請があった事業か。

【答弁】 芸術文化協会へ加盟団体が申請したものである。

方言収集活用事業

【質問】 仙人の郷方言集はどのようなものか。活用方法は。

【答弁】 村内でも地域によって異なる方言を載せたもので、各施設に置いて見ていただくことにする。

監査委員の決算審査意見



【意見】

地方財政を取り巻く環境は、少子高齢化の問題や不安定な経済状況の中、国が掲げる地方創生によって流動的な状況あり、国の動向を注視し、柔軟な対応が求められる。

形式収支は全会計とも黒字となったが、特別会計は単年度収支が赤字になっているものもあり、一般会計と特別会計が一体となり適正な運営が望まれる。

村民のニーズの変化や分権時代に対応した簡素で効率的な行政運営とサービスの向上を目指し、職員が一丸となって、むらづくりに邁進していただきたい。

【審査結果】

審査に付された一般会計及び特別会計の歳入歳出決算事項別明細書、実質収支に関する調書の計数は、それぞれ関係書帳簿及び証拠書類と照合した結果、誤りのないものと認められた。

監査委員

吉田 正
佐々木 悦 男

佐々木 正利 議員



仁郷山国有林内の遭難対策は

村長 遭難防止対策協議会等で協議したい

質問 毎年、竹の子採りシーズンになると、遭難者が発生し、捜索救助にかかる経費は多額で、関係機関の業務に支障をきたしている。国道342号線沿いにロープを張り、入山自主規制してきたが仁郷山国有林内で、近年また遭難者が発生するようになった。その対策は。

再問 期間を設けて入山禁止できないか。又、車を停める場所に入れないよう対策を講ずれば遭難者が少なくなる気がするが。

村長 国道342号をこの期間だけ駐車禁止帯にすることも考えられるが、道路もあれだけの広さをとっておりながら、駐車禁止することは非常に難しい面がある。国有地内であること、自然休養林もあり、かなり難しい問題になるが、引き続き栗駒山系の遭難防止対策協議会等を通じ

村長 駐車禁止は公安委員会警察の分野で、入山禁止は林野の部分になる。景色を眺めるのに駐車しては駄目なのか、高山植物を見に山へ入るのに何で入っては駄目なのか、入山規制や駐車禁止は現実難しかったが、この2点について協議を進めていきたいし、県との行政連絡会議で話題を提供してみたい。

台風豪雨に対する対策は

質問 台風10号は岩手県・北海道に甚大な被害を与えた。特に山間部の川沿いに集落が点在する岩手県岩泉町を、か

つてないほどの豪雨が襲い、死亡者や多くの住民が孤立する事態が発生した。類似した地形を抱える本村にとっても、今回の災害を参考に豪雨に対する認識を新たにし、知識の習得、避難情報の提供方法、ハザードマップの作成等構築すべきではないか。

村長 今年の台風は特に観測史上ない豪雨で、想定できない自然現象、気象状況にあるので、十分な対策をとって準備にあたらなければならぬ。村の管理する河川、県が管理する中小の沢に集中的な雨量があると、土石流が発生する危険性が非常に大きい。村の場合は至る所にあるのではないかと思うので総合的な調査、ハザードマップ策定に向けた準備に入るように指示している。同時に地域防災計画の見直しも進めながら避難所、避難指示のあり方など、いろいろ検討していかなければならないし、その必要性を強く感じている。



竹の子採り遭難者救助活動の状況

佐々木 健 夫 議員



学力トップクラスを前面にした人口増対策を

村長 教育を特化した移住にどれだけ多く来てくれるか

質問 東小の学力トップクラスが全国版週刊誌にのった。村で計画している若者向けアパート建設などを前面にPRした人口増対策を進めるべきではないか。

村長 学力教育を移住定住のよりどころにしたPRは、一つの選択肢と思う。ただ高校・大学への進学や移住定住した家族の仕事、生活環境、村の気象など諸々な条件があり、教育に特化した移住定住にどれだけ多くきてくれるかとも感じる。提案の趣旨には今後いろいろな形で具体的に呼びかけていきたい。

川ザッコが釣れなくなった要因を確かめるべき

質問 成瀬川でザッコが釣れなくなったと聞く。水棲昆虫、藻類なども含めて化学分析を



国内外から多数の視察者が訪問

して要因を確かめるよう地元
の村として先導するべきでは
ないか。

村長 成瀬川漁協では魚は見
えるし、釣り人も減っていない
とのことでした。川ザッコ

がヤマメ・イワナに食べられる可能性は十分あると考えられるが、推測のみで答える資料がない。浄化槽排水は、排水溝で水質検査を実施しており、前の雑排水放流より浄化されているので影響はないと考えるが、科学的な根拠がないので、国・県のダム関連調査で分析できないかを含めて検討していきたい。

更に小さな拠点施設とは

質問 村の主要施設は田子内地区に集約されているが、更に小さな拠点構想を描く考えを聞く。

村長 小さな拠点構想は国の理念で、人口減少、高齢化社会に対する方策の一つである。公共施設の集約化や生活の利便性の向上を目指している。買い物、医療サービスなど小さな地域の拠点化を図るものである。

商工会移転計画、事前に議会へ説明ほしかった

質問 商工会事務所の山村開発センター移転計画については、今年1月から商工会と協

議していると聞くが、8月の商工会との懇談会で詳細が分かった。前から大きな出来事は事前に議会に通してほしいといっていたが、今回も事前説明がなかったが。

村長 商工会に強く移転を求めたものではなく、役場・山村開発センターを改築する計画があり、この機会に商工会事務所移転を検討してはどうかと商工会に話した。商工会の考え、意向が示されない段階では議会に説明するものではないと判断していた。

工事発注後の変更が多い

質問 給食・食肉加工センターなど、工事発注後の増額変更が多い。事前の綿密な計画・調査で外構工事まで降雪前に完成できないか。

村長 補助、起債事業は、国の財源の目処がついてから着工することで遅れることがある。また工事中に変更せざるを得ない場合もあり、どうしても遅れて補正対応が必要になる場合があるが、今後は事前の調査、設計の精度を高めて円滑な工実施に努めていきたい。

佐々木 修 議員



地方創生事業の将来にわたる経費の試算は

村長 公債費、維持管理費を将来予測していく

質問 5年間で取り組む地方創生事業で、新たに発生する維持費、管理費、公債費など将来に向けての経費の試算を伺う。

村長 国からの交付金もあるが、村は事業費として最大限有利な財源を充当する努力をしていく。ハード事業は過疎債中心になるが、公債費、施設の維持管理費も増大していくので、当然将来予測として推測し、費用対効果、財政事情を考慮し慎重に事業を進めていく。

質問 地方創生事業はPDCA(計画・実行・評価・改善)により検証、改善することある。村の財政を考えれば予算的な面も自ら検証、改善が必要ではないか。

村長 地方創生ではPDCAを年度ごとに確認し事業を推

進していく。またPDCAは今後の村政、行政運営についても基本になると考える。

事業の効果が出るよう努め、行政運営、財政運営を安定的な中にも積極的な事業展開を推進していく。

再質問 新たに進む地方創生事業の人口減少対策と、これまでの生活に関わる取り組みを、長期に両立することが大事では。

村長 村の出生率は良いほうに位置しているが、更に地方創生事業では雇用の場創出で、移住者増加、人口減少対策を基本方向とする。

地方創生事業の検証の場でも、今後の新たな事業費や経費について、また将来にわたって財政運営が硬直化しないように経費を抑えていく視点を議論していく。



将来施設の維持管理費が心配される

ナラ枯れについて

質問 最も被害が進んでいる滝の沢地区の状況は。また村内の被害状況は。

村長 滝の沢地区内の天然林面積約370ヘクタールの内、昨年度の調査では、430本が被害木として目視で確認されている。村内の状況は、新規被害木が平成26年には50本だったものが、平成27年度には急速に拡大し、今年度は被害範囲を広げて村の東側に進んでいる。

質問 現在の対策と、今後の方向は。

村長 調査として、全県一斉にヘリコプターと地上の目視により行う。

対策は県の基準により優先順位を決め、薬剤による処理を行っている。抜本的な対策が確立されておらず、薬剤による防除と、被害を受ける前の更新伐等で各方面と連携しながら森林整備をしていく。

再質問 森林活用、対策費用の問題、やれる事やれない事、など現実的な対策を検討し、全体の方向をまとめる作業が必要ではないか。

村長 将来の方向性に具体的に取組んでいくように、さっそく本会議後に検討機関を立ち上げ検討する。

議案 質疑

9月定例会議

定例会議最終日となった20日に議案に対する質疑が行われました。

条例などの主な内容と質疑を要約してお伝えします。

防犯カメラ設置及び利用に関する条例を制定



○東成瀬村防犯カメラ設置及び利用に関する条例

・防犯カメラの設置及び利用に關し、防犯カメラの有用に配慮しつつ、村民の権利利益を保護することを目的に、防犯カメラの設置者が遵守すべき義務等を定める条例を制定した。

○財産の処分について

質問 ダム事業用地内に村有地で補償の対象となる用地がまだあるのか。

答弁 村有地で補償対象となる用地は、赤滝に行く道路及び周辺の土地が残っている。

○工事請負変更契約の締結について（循環拠点施設建設工事 建築本体）

質問 土盛り工事と基礎工事で2218万3千円が増額となっている。この内、土盛り工事はどのくらいか。建物が建った以外の用地はどういったことを想定しているのか。

答弁 造成工事の追加分は直接工事費で約850万円となっている。用地についてはダムの水源地域特別措置法に基づく成瀬ダム水源地域整備計画にもあるが、森林バイオマス施設を計画している。

○工事請負変更契約の締結について（循環拠点施設建設工事 機械設備）

質問 エアコンの設置費が114万5千880円増額となっている。部屋の大きさから家庭用大型エアコンでも対応が出来そうだが。

答弁 天井に設置するタイプで、機器だけで30万円、工事等含め2台で60万円、配管・室外機など合わせて100万円が変更増額となっている。

質問 もみ殻の炭化施設であれば利用する時期が9月中旬以降になりエアコンは必要ないのではないか。

答弁 循環拠点施設は1年を通じた利用を想定している。もみ殻が集中する時期は今の時期であるが、精米作業の関係からもみ殻は計画的に搬出されることになり、施設内に保管し必要な分を製造し提供していく。

答弁 現在把握しているのは1件有り、商工会で管理しているもので、農協前に昨年設置したもの1基となっている。

質問 道路に設置されているものはこの条例の対象外か。

答弁 道路管理者が設置し道路管理に使用するものは対象外である。

質疑白熱

9月定例会議 予算特別委員会(9月16日)

主な質疑の内容を要約してお知らせします。

平成28年度
一般会計補正予算(第5号)

歳入

臨時財政対策債の減は

質問 臨時財政対策債の減額理由は、

答弁 地方交付税の歳入欠陥を補うもので、交付税に代替するものである。減額は国の税収が上がったことによるものである。

歳出

村例規集の更新内容は

質問 村例規集更新委託料は、加除式の例規集の更新か。

答弁 データベースで管理している村例規集の更新となっており、村のホームページで公開している。

何を工事するのか

質問 財産管理の本工事費追加は、移転雑費補償費を財源にどのような工事を行うのか。

答弁 ダム事業により移転雑費補償費で対象となるものの撤去費である。

用地購入費は

質問 地方創生事業の用地購入費は何処か。

答弁 循環拠点施設の敷地で、椿川立石地区の用地、6名17筆分となっている。

設計上の問題では

質問 食肉加工センターの結露対策として修繕料100万円が計上されているが、どのような状況か。

答弁 冷凍庫の通路側の温度差が大きいために原因で、結露対策として除湿機或いはエアコンを設置して解消したい。

質問 設計業者と工事業者から聞き取り調査などを行ったか。

答弁 設計・施工・設備業者を集めて検討を行った結果、施工上の問題ではないとし、想定を上回る温度差があったと認識している。

費用に対する効果はあるのか

質問 ナラ枯対策事業委託料追加は、何か所で何本を伐倒燻蒸するのか。

答弁 ぼよんの森で、被害木14本を見込んでいます。

質問

ぼよんの森は樹幹注入防除を行っているが、注入したものは効果がみられたのか。

答弁 樹幹注入の防除は2年間しかもたない。2年を経過している木が被害にあっている。

急な話に感じるが

質問 スノーボードクロス大会への補助金が計上されたが日程など決まっているのか。

答弁 3月3日・4日の日程で開催されるもので、全日本で認定している大会となっている。

質問

全日本スキー選手権大会であれば春の時点で決まっていると思う。今の時期にどのような経緯でジュネスになったのか。

答弁 秋田未来プロジェクト事業で大会の誘致、合宿の誘致を進めていたところ全日本から打診があった。

栗駒山荘の修繕は

質問 栗駒山荘の雨漏りは台風被害によるものか。保険の対象にならないのか。

答弁 状況を調査し原因を特定し対象となる場合は申請する。

入居の条件は

質問 平良・手倉地区の定住促進住宅にはどのような方が入居されるのか。

答弁 改修後に募集することになるが、今年度整備する2棟は村単独事業で実施するもので村の方でも入居が可能である。



予算特別委員会

人事

議会の同意を必要とし、任期満了となる委員の人事案件が提出され全会一致で同意しました。

教育長

鶴 飼 孝(横手市増田町 72歳)

※新任



(任期) 平成28年10月17日から
平成31年10月16日まで

教育委員

佐々木 知子(蛭川 46歳)

※新任



(任期) 平成28年10月17日から
平成32年10月16日まで

固定資産評価審査委員

菅野 由美子(滝ノ沢 60歳)

※新任

谷藤 博克(岩井川 62歳)

※新任

高橋 義明(谷地 63歳)

※再任

(任期) 平成28年9月20日から
平成31年9月19日まで

契約

○東成瀬村循環拠点施設建設工事

建築本体工事(変更契約)

変更前 9676万8000円

変更後 1億1895万1200円

変更額 2218万3200円

○東成瀬村循環拠点施設建設工事

機械設備工事(変更契約)

変更前 7857万円

変更後 7971万5880円

変更額 114万5880円

28年度一般会計補正予算(第5号)の主なもの

※教育委員長と教育長を一本化する新教育委員会制度の創設により新任となる。

歳入	
○村税	
村民税の増	396万円
固定資産税の増	810万円
○地方交付税	
普通交付税の増	1億755万円
○財産収入	
土地売払収入の増	1億3507万円
○諸収入	
奨学資金貸付金の増	181万円
移転雑費補償費	1087万円
○村債	
臨時財政対策債の減	▲694万円
一般単独災害復旧事業債	940万円
歳出	
○総務費	
村例規集更新委託料の追加	211万円
本工事費の追加(成瀬ダム事業移転補償分)	1,000万円
備品購入費(庁舎等改修関連)	250万円
用地購入費	1473万円
標準地鑑定評価業務委託料の追加	130万円
○民生費	
広域入所委託料の追加	177万円
○農林水産業費	
ナラ枯れ対策事業委託料の追加	121万円
○商工費	
修繕料(食肉加工センター結露対策等)	100万円
修繕料の追加(栗駒山荘の雨漏り)	200万円
○土木費	
自動車等借上料の追加	150万円
○消防費	
設計委託料の追加(防災情報センター空調設備)	300万円
○教育費	
地域活性化推進事業補助金(スノーボードクロス競技大会)	100万円
消耗品費の追加(安全ネットほか)	290万円
○災害復旧費	
測量設計委託料(土木災害復旧費:台風9号被害)	100万円
本工事費(土木災害復旧費:台風9号被害)	640万円
本工事費(保健体育施設災害復旧費:台風9号被害)	300万円
○諸支出金	
財政調整基金積立金の追加	2億8000万円

9月定例会議議決事項名

平成27年度決算に基づく健全化判断比率及び資金不足比率の報告について	平成28年度介護保険特別会計(保険事業勘定)補正予算(第1号)
専決処分の報告について	平成28年度簡易水道事業特別会計補正予算(第2号)
固定資産評価審査委員会委員の選任について	平成28年度下水道事業特別会計補正予算(第2号)
固定資産評価審査委員会委員の選任について	平成27年度一般会計歳入歳出決算認定について
固定資産評価審査委員会委員の選任について	平成27年度国民健康保険特別会計(事業勘定)歳入歳出決算認定について
防犯カメラの設置及び利用に関する条例について	平成27年度国民健康保険特別会計(直営診療施設勘定)歳入歳出決算認定について
中山間地域活性化推進基金条例を廃止する条例について	平成27年度後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について
財産の処分について	平成27年度介護保険特別会計(保険事業勘定)歳入歳出決算認定について
工事請負変更契約の締結について	平成27年度介護保険特別会計(介護サービス事業勘定)歳入歳出決算認定について
工事請負変更契約の締結について	平成27年度簡易水道事業特別会計歳入歳出決算認定について
平成28年度一般会計補正予算(第5号)	平成27年度下水道事業特別会計歳入歳出決算認定について
平成28年度国民健康保険特別会計(事業勘定)補正予算(第1号)	教育委員会教育長の選任について
平成28年度国民健康保険特別会計(直営診療施設勘定)補正予算(第2号)	教育委員会委員の選任について
平成28年度後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号)	議員の派遣について

7月臨時会議

7月22日に臨時会議が開かれ、契約案件3件、補正予算1件を全会一致で可決しました。

契約

○東成瀬村簡易水道事業膜ろ過処理設備工事
 契約の方法 条件付き一般競争入札
 契約額 1億2744万円
 相手方 理水科学株式会社 仙台支店

○東成瀬村簡易水道事業高区配水池築造工事
 契約の方法 簡易公募型指名競争入札
 契約額 7700万4千円
 相手方 岩野・大橋特定共同企業体
 代表者 岩野設備工業株式会社

○東成瀬村簡易水道事業低区配水池築造工事
 契約の方法 簡易公募型指名競争入札
 契約額 1億119万6千円
 相手方 横手水道・鈴木建設特定共同企業体
 代表者 横手水道工業株式会社

食肉加工センター運営状況

報告会が開催される

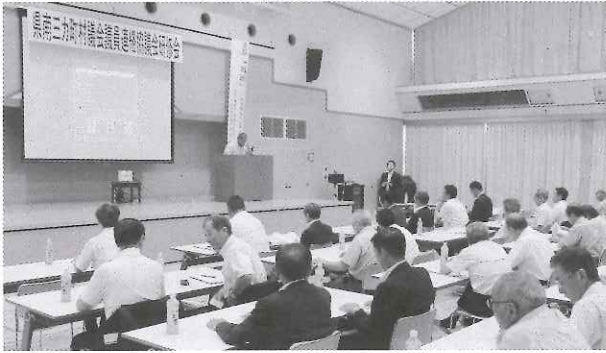
7月22日、臨時会議終了後に食肉加工センターの運営状況についての報告会が開催され、議員全員が出席しました。

同センターの指定管理者である(株)羽後の國ファームの代表取締役菅原一範氏から会社の運営状況を、販売・企画・商品開発を手がける(株)フードワークス代表取締役宮本圭一氏から商品の内容などについての説明を受けました。



現況を報告する菅原代表取締役

議会の動き



県南3カ町村議会議員研修会

7月28日、美郷町において県南3カ町村議会（美郷町・羽後町・東成瀬村）で組織する連絡協議会の研修会が開催され、本議会から全員が参加しました。



商工会との行政懇談会

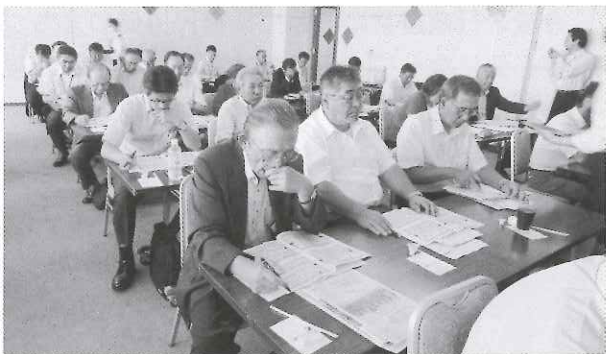
8月23日、商工会役員と議会の行政懇談会を開催しました。商工会から提出された4項目の懇談内容について意見交換が行われました。



町村議会議員研修会

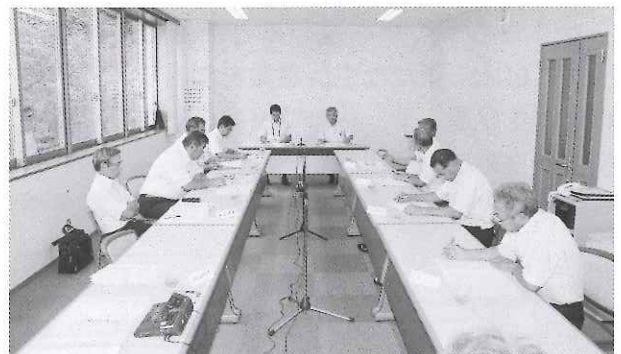
8月1日、秋田市で県内議会議員を対象にした議員研修（主催：県町村議会議長会）が開催され、本議会から全員が参加しました。

委員会活動



議会広報研修会

8月1日、秋田市で県内町村議会を対象とした議会広報の研修会（主催：県町村議会議長会）が開催され、本議会から議会広報対策特別委員会委員の5名が参加しました。



合同常任委員会

9月6日、総務教育民生常任委員会と産業建設常任委員会が合同で委員会を開催しました。商工会との行政懇談で話題提供された畜舎の管理について、副村長及び担当課長に出席を求め状況の説明を受けました。

視察レポート

議会では7月5日から7日にかけて、常任委員会合同により先進地行政視察を実施した。

総務教育民生常任委員会では「定住促進事業」を、産業建設常任委員会では「最新の形式によるダム建設とパークゴルフ場の管理運営」を主な調査事項として、その先進事例を学んだ。

高齢者は宝・伊達市

総務教育民生常任委員会 佐藤 正次郎

早くから団塊の世代の退職者や高齢者などの受け入れを積極的に行う「人の誘致」に取り組むという他市町村には無かった発想で、移住・定住施策を推進し成果を上げた伊達市の取り組みについて視察を行った。

北の湘南というブランド化

北海道南西部に位置している伊達市は、北には有珠山、南には内浦湾が広がる自然あふれるまち。一年を通して温暖な気候に恵まれた地域であることから名付けた「北の湘南」というブランドを確立し、多くの高齢者移住を受け入れている。

伊達ウェルシーランド構想

少子高齢化が進む中で、高齢者が安心・安全に暮らせるまちづくりを進めるとともに、高齢者ニーズに応える新たな生活産業を創出し、働く人達の雇用を促進して、豊かで快適なまちづくりを目指す取り組み。

この構想により、平成14年から様々な事業を展開している。

シニア向け安心ハウス

安心ハウスとは、市が定めた整備・管理条件などの基準を満たした民間住宅を「伊達版安心ハウス」として市が認定するもので、2棟65戸が認定を受けている。

伊達版優良田園住宅

市有地だった「西胆振農業センター」跡地を活用した民間開発による建設事業を進め、平成19

年10月より宅地造成と販売をスタートしている。全53区画、区画面積は127坪から257坪と広いが、平均坪単価は37,000円で、市街地の約1/3程度の価格であった。平成25年3月に全53区画が完売となっている。

愛のリタクシー

高齢者の日常の移動を手軽にする会員制乗合タクシー事業で、60歳以上の方が対象。

通常のタクシー料金より低料金で利用することができる。

所感

伊達市のウェルシーランド構想は、高齢化を逆転の発想で前向きに取り組み、行政と民間が一つになって「住みやすさと“まち”の魅力向上」へ施策を展開していた。

今後の行政運営において、官民協働のまちづくりが必要になってくるのではないかと感じた視察研修となった。



伊達版優良田園住宅（田園せきない）

全国で3番目の台形CSGダム

産業建設常任委員長 高橋 健

成瀬ダムの本体工事が間近となっているなか、新しいダム型式でダム建設を行っている北海道勇払郡厚真町の厚幌ダムへCSG工法（新工法）の視察を行った。

厚幌ダムの概要

厚真町は苫小牧市の隣に位置し太平洋に面し道内でも比較的積雪の少ない地域である。

厚真町を流れる厚真川に建設される厚幌ダムは、多目的ダムで治水（洪水調整）と利水（かんがい用水及び水道水の供給）及び流水の正常な維持（河川環境の保全）を目的に建設するものである。

ダム型式は台形CSGダムで、堤高47.2m、堤頂長516.0m、総貯水容量4700万 m^3 と成瀬ダムと比較すると規模の小さなダムである。

台形CSGダムとは

ダム型式は堤体材料により大きくコンクリートダムとフィルダムに二分されている。ダムサイトの地形・地質条件、材料の確保、施工性など総合的な観点から選定されてきた。ダム建設におけるコスト縮減、環境への配慮が求められることから国土交通省等で研究開発された。



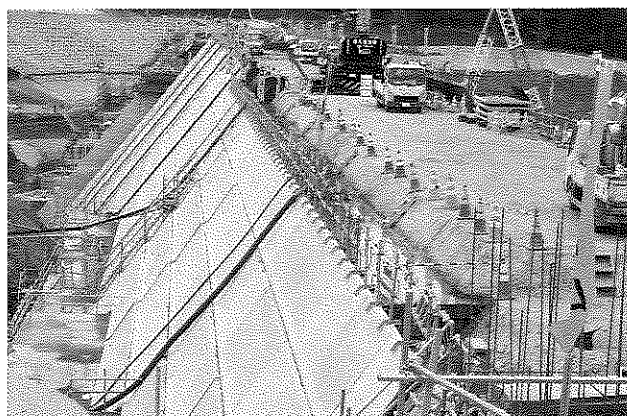
厚幌ダム建設事務所職員から説明を受ける

台形CSGダムは、「台形ダム」と「CSG工法」の特徴を併せ持つ新型式のダムである。「CSG」はセメントで固めた砂礫という意味で、河原で取れる砂や砂利、工事で発生する岩石などにセメントや水を加えて練り混ぜ、固めた材料を指すもので次のメリットが上げられる。

①堤体材料として、ダムサイト近くで容易に入手できる河床砂礫や掘削ズリを有効活用できるため、原石山の縮小が可能となる。

②採取した堤体材料は、分級等せずそのまま使うため、コンクリートダムのように骨材を製造する設備や濁水処理設備等が不要、もしくは簡素化できる。

③CSGの打設は、ダンプトラックやブルドーザーなど身近な汎用機械を用いるため、安価で大量・高速施工が可能となる。



ダムの堤体（車両が載っている部分がCSG）

所感

厚幌ダムは当初計画で重力式コンクリートダムだったものを計画変更して台形CSGダムとしている。コスト縮減と環境保全への効果が期待される工法であることから今後この型式のダムが増えていくのではないかと感じた。

「ねんりんピック秋田2017」に向けパークゴルフ場を視察

パークゴルフ場の管理運営について、民間企業が運営する「糸井の森パークゴルフ場」を視察し、経営と芝生管理のアドバイスを頂きました。



場内で芝生の感触を確認する



稲作と畜産の両立に意気込みを持つ富田代表

この人に聞きたい
 かほ Kahō の突撃
 いんたびゅう

今回は、農事組合法人 岩井川ファーム 代表の
 富田富男 氏にインタビューしました。

- かほ** 今年のコメの作柄はどうですか。
- 富男** まあまだな！量的に去年よりいいな。
- かほ** 受託面積はどれぐらいありますか。
- 富男** 主食用米が11町歩と飼料用米が6町歩で、牧草を3町歩ほどやっている。
- かほ** 作業スタッフは何人ですか。
- 富男** 年間雇用が4名で、パートの7名で対応している。
- かほ** 米の出荷先はどのようなところへ。
- 富男** 村内の施設やふるさと納税の返礼品などに販売している。近々大手企業から米を売ってほしいということとで相談に来ることになっている。
- かほ** 米以外にどのような作物を生産していますか。
- 富男** ファームでは珍しく牛を飼っていて、牧草や稲わらを飼料に、堆肥を肥料へと循環型農業に取り組んでいる。
- かほ** えー牛いるんですか、現在14頭を飼育しているが、県内でもここだけの様で、あちこちからしょっちゅう問い合わせが来ている。
- かほ** 注目されてますね、講演なんかもたのまれたりして大変だ……
- 富男** 村も牛に力を入れているし、お互いにいいことだと思う。
- かほ** 最近の牛の値段がいいとか、ふつつふつ（笑）
- 富男** 岩井川ファームの特徴ですね。
- かほ** そう！牛もそうだが、特別栽培米にも取り組んでいて、減農薬と堆肥を使った有機栽培も特徴となっている。「堆肥を入れるからおいしい米ができる！」
- かほ** 新たに組み組んでみたいことなどありますか。
- 富男** 牛を増やしていきたい。20頭でも30頭でも、規模を大きくし、雇用してやっていけたらと考えている。
- かほ** 後継者不足が心配されますが岩井川地区の状況は、息子が後を継いでくれるようだ。仲間も探している状況で、心配してねえな！
- 富男** 最後に今後の展望をお聞かせください。
- かほ** 地域の要望に応え、いい農業の見本になるよう頑張っていきたい。

暫時
 休憩
 さんじ きゅうけい

▼少人数でも地道に頑張っている組織が多いが、ふれいきサロンもその一つである。

▼月一回9集落で年間参加延人数一千五百人ほど。保健師・社協職員の血圧測定、健康体操など、趣向を凝らした気軽なサロンである。

▼9月に二つのサロンが、村内めぐりで滝ノ沢遺跡、ミニライセセンターや給食・食肉加工センター、畜舎、ダム第二トンネルなどを視察したところ、大変好評であった。

▼村内でも村民がまだ見たことがないところが多くあるようだ。

▼サロンなどでの話のタネとしても、まず、今の村の変わりようを見ることもまた然りかとー。

(委員長・佐々木健夫)